

建設業経理士 1級財務分析 出題パターンと解き方 過去問題集&テキスト 11年9月・12年3月試験用(2011年5月22日 第6版第1刷発行) 正誤表

弊社の書籍をご利用いただき、有難うございます。

訂正が出ないようにと努力しておりますが以下の通り、誤りが判明致しました。

お手数をおかけして申し訳ございませんが訂正の上、ご利用下さい。

なお、弊社HP[「ネットスクール」検索→「読者の方へ」]にて訂正資料等の最新情報を閲覧・ダウンロードできますので、ご利用下さいますようお願いいたします。

2013.3.8

ページ	該当箇所	誤	正	備考
3-26	3. 完成工事原価(C) (1)完成工事総利益 網掛け部分下の算式	$\frac{\text{完成工事総利益}}{200,000\text{百万円}} = 0.045$ $\text{完成工事総利益} = 0.045 \times 200,000$ 百万円=8,900百万円	$\frac{\text{完成工事総利益}}{200,000\text{百万円}} = \mathbf{0.0445}$ $\text{完成工事総利益} = \mathbf{0.0445} \times 200,000$ 百万円=8,900百万円	2011.09.05
2-19	貸借対照表 建設仮勘定の数値	建設仮勘定 21,600	建設仮勘定 21.660	2012.02.23
建設業振興基金より発表された分析比率表の変更に伴い、P1-16財務分析における注意すべき概念の支払利息の計算式および第6回過去問題の第4問対策の解答および解説を以下のように改めました。				
1-16	建設業経理士試験 財務分析における 注意すべき概念 支払利息の計算式	支払利息=借入金利息+ 手形割引料 +社債利息 +その他他人資本に付される利息	支払利息=借入金利息+社債利息 +その他他人資本に付される利息 (手形割引料を削除)	2013.3.8
2-78	問3 解答	710百万円	725 百万円	2013.03.8
2-78	問4 解答	62.24%	61.05%	2013.03.8
2-79	問3 変動費の算式	720百万円-10百万円=710百万円	720百万円-10百万円+ 15 百万円= 725 百万円	2013.03.8
	問4 固定費の算式	250百万円+40百万円+15百万円=305百万円	250百万円+40百万円= 290 百万円	2013.03.8
	問4 損益分岐点完成工事高	$\text{損益分岐点完成工事高} = \frac{305\text{百万円}}{1 - \frac{710\text{百万円}}{1,200\text{百万円}}}$ $= \frac{305\text{百万円} \times 1,200\text{百万円}}{490\text{百万円}}$	$\text{損益分岐点完成工事高} = \frac{290\text{百万円}}{1 - \frac{725\text{百万円}}{1,200\text{百万円}}}$ $= \frac{290\text{百万円} \times 1,200\text{百万円}}{475\text{百万円}}$	2013.03.8
	問4 損益分岐点比率	$= \frac{1}{1,200\text{百万円}} \times \frac{305\text{百万円} \times 1,200\text{百万円}}{490\text{百万円}}$ $\times 100 \div 62.2448$ 損益分岐点比率→62.24%(小数点第3位を四捨五入)	$= \frac{1}{1,200\text{百万円}} \times \frac{290\text{百万円} \times 1,200\text{百万円}}{475\text{百万円}}$ $\times 100 \div \mathbf{61.0526}$ 損益分岐点比率→ 61.05% (小数点第3位を四捨五入)	